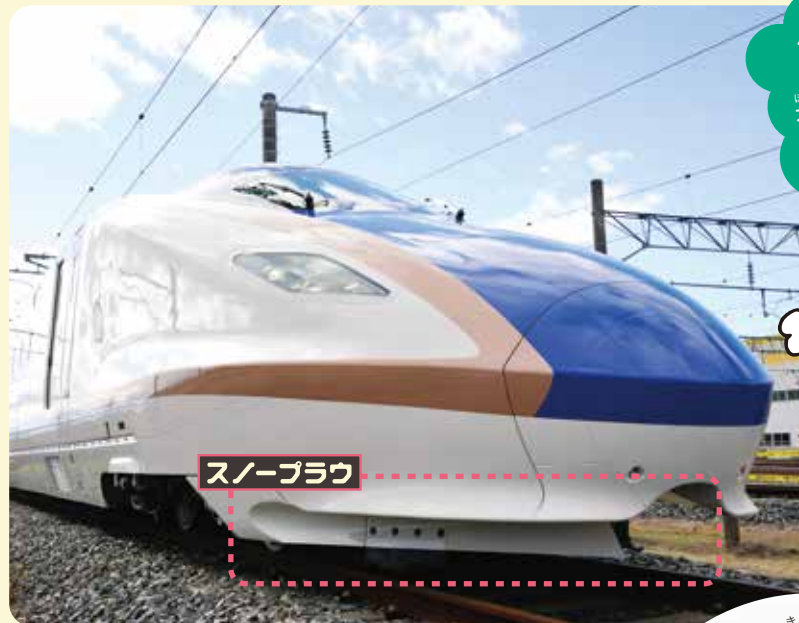


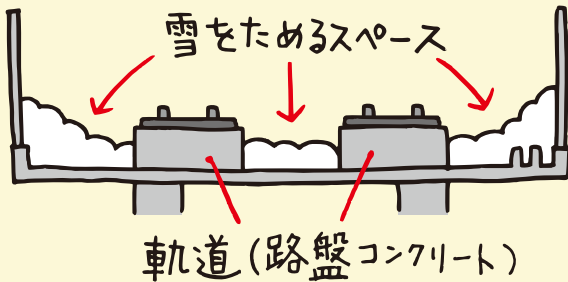
北陸新幹線の特ちょう

雪に強い

雪の多い地域を走る北陸新幹線には、先頭車両にスノープラウという雪かき装置がついていて、雪をかき分けながら走ります。また、高架橋では、新幹線が走る軌道（路盤コンクリート）を高くして、除雪車がかき分けた雪を貯めておくスペースをつくっています。



2018年2月の大雪の時も、北陸新幹線はほぼ平常どおり運行されたんだ。



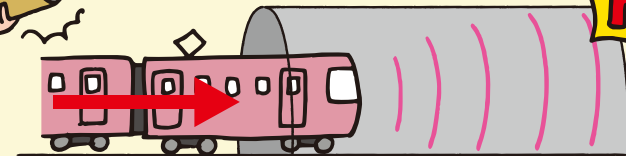
大きな音が出ないくふう

新幹線には地域ごとの気候や状況などに合わせて、さまざまな工夫がされています。福井県を走る北陸新幹線にも、安全に速く走るための特ちょうがあります。

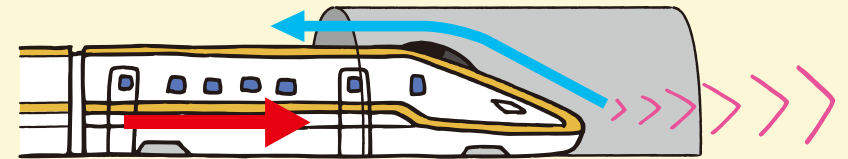
空気でっぽうと同じくみだね。



ポン!



ドン!!



列車がトンネルに入るとき、トンネルの中の空気が一気に出口におし出され、大きな音（トンネル微気圧波。「トンネルドン」とも呼ばれています）が出ます。でも、新幹線は先頭車両が流線型であるため、空気が少しずつおし出されるので、音をおさえることができます。



風を切る音をおさえるため、パンタグラフ（電線から電気を取り入れる機械）も空気がいこうが少ない形（支えの部分が1本だけで「く」の字）になっています。数も少なく、1編成（12両）に2基だけとなっています。